

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276700172		
法人名	有限会社旬彩亭		
事業所名	グループホーム旬彩		
所在地	磐田市今之浦1-1-13		
自己評価作成日	令和6年 3月 14日	評価結果市町村受理日	令和6年 4月 12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階
訪問調査日	令和6年 3月 29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様一人一人の尊厳を守り、穏やかで安心した日常生活を営むことが出来るよう支援いたします。
 ご利用者様の住み慣れた地域のもう一つの家として過ごせるように共に歩み姿勢で誠意あるサービスを提供します。
 ご利用者様の特性に配慮した居心地のいい環境を提供します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

一般の賃貸マンションと同じ作りの居室であることから、管理者は「つくりの違いを生かした生活のリズムの差別化を図っていきたい、利用者個々の要望に答えるようにしていきたい」との思いがある。上階には一般の住民が住んでおり、職員も居住している。隣接するマンションにも職員が数名住んでいることから地域住民として自治会活動も活発に行われ、災害にもすぐに駆け付けられる状況にあり安心して生活ができている。職員ステップアップのために研修に参加してもらっていたり、資格取得にも積極的に支援している。遊歩道や公園が隣接しており積極的に散歩に出掛けている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「利用者の尊厳を守り、地域との交流を深めながら居心地のいい環境を提供する」ことを理念としている。現在の理念、方針に関して職員もよく理解し、日常の業務を遂行してくれている。	理念をホールに貼付しており、朝礼時に話しをするようにしている。また月1回の職員会議の際にも、方針として話をする機会を設け支援に繋げている。職員も施設周辺に住んでいることから地域との交流は日々行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の会議や防災訓練などに施設として参加をさせていただいたり、運営推進会議に地域の方も参加していただき情報を共有している。	管理者が現在組長として地区の活動も行っていることから、地域との情報は密に共有されている。夏祭りの無料券が利用者に配布され参加したり、地域住民がアコーディオン演奏で来訪され交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで地域の方々に対して、当施設での認知症に対する理解や対応方法と現状を知っていただき、何か困ったことがあれば相談に来ていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度、運営推進会議では利用者の状況報告や活動を知っていただき、意見交換をしている。そこでいただいた意見を介護サービス・防災対策に活かしている。	定期的に行われる運営推進会議では自治会長はじめ民生委員や地域包括の職員などの参加がある。先日行われた会議では、法改正によって受け入れなどの変化はどうかの質問があり、話し合いの場を設けている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に包括支援センターや市役所の担当者に参加していただき、顔なじみとなり現在の施設の取り組みを報告したり地域との連携等についてご相談させていただき、貴重なご意見を頂いている。	介護相談員による月1～2回の訪問がある。法改正などの折には内容確認に出向いたり、申請時などで介護支援専門員が相談などを行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	すべての職員に拘束について理解してもらい、玄関の施錠・身体拘束等をしないようにしている。	ミーティング時に研修を行う時間を取り、身体拘束や虐待について話し合い共有している。玄関は施錠されず、利用者が出入りする姿が見られた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	すべての職員に虐待について理解してもらい、身体的虐待はもちろん、言葉による虐待・無視・不平等差別等、日常におこりやすい行為を特に注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去に成年後見制度の申請をした方がおり、その時の流れや書類などをまとめて資料として保管してある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には利用者・家族と要望や不安や疑問点について十分な話し合いをし、納得下さるまでご説明している。解約に関しては今までご家族側からの要望がほとんどなので、しこりが残らないよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に見えたときは、意見などを言いやすい雰囲気作りに努め、相談・要望・意見等時間を取って話し合っている。また、その意見や要望は職員に周知し介護サービスの向上に努めている。	コロナ禍でなかなか散歩に行かれない時期が長く、続き家族から「足腰が弱くなってしまわないか心配」との声が聞かれ、座って行う足ふみペダルを購入して、運動を行うようにした。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会社としての方針・変更点などの運営に関しては、個人的に疑問点・意見があれば聞き、内容によっては運営者に相談している。	管理者が運営会社の代表でもあることから、改めての話し合いは行われていないが、日々の生活の中から意見をもらえるようにしている。シフトの見直しを行い夜勤時間をずらすように工夫を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい時間や勤務内容等、職員の声を聴きシフトに反映している。日常の勤務状況などを密に連絡しあい、理念達成の為お互いが向上するよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人ひとり介護支援をしながらトレーニングを進める。各事業の研修は勿論講演会には出来る限り参加するよう働きかけている。また、研修の内容については回覧で皆、共有するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の事業所連絡会に参加し、他の施設との相互の交流を深めている。市内の管理者どうしの連絡をもち、情報交換などをして運営に反映している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者と向かい合う時間を持ち、不安や要望等、納得のいくまで十分話し、どうしても不明な点はご家族に相談し、助言を頂き、再度話し合った事をケアプランに反映している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族には気軽に話していただけるような雰囲気を作り、話を聞く耳をもって接している。要望実現の為、いろいろな立場の人と話しが出来る機会を作っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	電話での相談や直接見学にいられた時、今必要とされる支援をよく聞き説明に努めている。その内容に応じて他のサービスを紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として教えられることも多く、それぞれ特技・長所を教えていただいたり、学んだことに関しては感謝の気持ちを素直に表すと同時に今後の介護に活かせるよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	体調に変化があった際はご家族にも様子を見に来ていただき、問題がある場合、ご家族に相談し解決に向けて話し合いを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・親戚が面会に見えられたり、電話があったときは職員から一言近況をお知らせしている。	面会や外泊、外出の制限は行われていない。近隣の薬局やスーパーにはまだいかれていないが、今後以前のように買い物に出かけられるようにしていきたいとの思いがある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士で懐かしい歌や映像を聞いたり見たり歌ったりしてささえあう姿が日常的にみられる。 (散歩、就寝時、レクリエーション)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	「何かあったらいつでもご相談ください」「近くまで来たらお立ち寄りください」のような声掛けをしている。長期の入院をされている方には、見舞いに行き声を掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自宅で過ごしていた習慣、本人の思いを大切にしている。例えば、朝もう少し寝ていたという方には休んでいただいている。体調不良を訴える方には本人の希望を考慮に入れ自室でお食事をとってもらうこともある。	生活歴から今まで行っていた好きなことを聞き出し支援できるようにしている。釣りが趣味だった方とは本を見ながら会話をして楽しんだり、個々の生活リズムが保持された生活となるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活環境、生活歴をご家族様よりお聞きして、なるべく近い状態でのサービスを提供するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各個室にてプライバシーは確保されており、談話室、事務所は出入り自由で居心地のいい場所にいられるように誘導している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者の日常の様子・本人・ご家族の意見を聞き取り、実践するよう努力している。毎日の申し送りやミーティングを通して介護計画の検討している。	関係職員が集まったの会議はできないが、介護支援専門員が職員や日誌を確認しながら介護計画を立てるようにしている。体調に変化があった時は、ミーティングの際に検討するよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日報・夜勤日報・日誌にて客観的な出来事、主観的な考察を交えて記録しており、職員は誰でも目を通すことができるようにしている。また、引継時には連絡ファイルに記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設している小規模多機能型の施設の利用も検討したり、本人の状態に合わせて福祉用具の購入や在宅医療と連携して医療面での支援等も検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会の方は運営推進会議に毎回出席してくれております。行事のイベント参加でのボランティアの方々が協力し支援してくれています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医院と連絡を密にして適切な医療サービスが受けれるようにしている。異常・緊急時には協力医院の医師が往診に応じていただいている。(訪問歯科は定期的)	かかりつけ医のある方には入居後もそのまま受診をお願いしている。協力医には月1回家族付き添いのもと受診をお願いしている。看護師が常駐しており、受診先と薬局の連携が密にされており情報交換がされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師が日常の入居者の健康チェック、服薬管理、受診の付添、急変した時は夜でも休日でも出勤してくれ体調を見てくれる。電話でも相談助言をしてくれる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	基本的には担当医師、ご家族の判断に任せているが、当方としては退院時カンファレンスや相談員と連絡を密にとりつつ戻られてもいように準備しその旨をお伝えしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に同意書を交わし、もしもの時の対応についても話し合っている。看護師と職員と常に入居者の体調変化に注意し急変に備えている。かかりつけ医に連絡相談し、助言・指導を頂いている。	看取り期には、かかりつけ医から情報をいただき在宅往診クリニックに変更してもらっている。入居時に看取りについての同意書を交わしているが、看取りに入った際の医者や事業所との話し合いの同意書が取られていない。	看取りについては細かに情報提供を行うことが必要と考えられることから、体調変化時には同意書を交わし家族、利用者、職員ともに安心できる状況を作ることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変・事故に対しては、マニュアルを作成・急変時の延命処置等も事前にご家族の同意をもらい、また救急搬送時の情報提供表を活用し迅速に対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行っている。上階に住んでいる方や自治会にも参加していただくよう声を掛けている。職員緊急連絡網にて伝達訓練も行っている。	隣接する施設に一週間分が備蓄されている。施設前の道路は低くなっており、水害地域に入っているため上方避難訓練を中心に行っている。事業所上の階の住民との協力体制が構築されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	歩き回ったり、落ち着きが無かったりする方には積極的に声掛けをしている。 記録などは入居者の目に付かないように保管に十分注意している。	個人ファイルや書類などは事務所で一括保管している。利用者が落ち着かず不穏になった時は、他の方にわからないように誘導を行うことを心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉以外にも顔色や態度からも感じ取る努力をしている。にこやかにスキンシップも交えてわかってもらうよう日頃から入居者と接している。外出や買い物等利用者の「したい」気持ちを尊重するよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のスケジュールは決まっているが、決して急かすことの無いようにしている。集団生活の中でも利用者のペースに合わせて、状況が許す限り本人の思いに添った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔を保つ以外には出来る限り本人の希望通りにしている。 散髪は月に1回、訪問美容に来ていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けはその方が出来る範囲で一緒に行っている。食材配達業者に依頼しているので1ヶ月のメニューが決まっているが、週1回特別メニューに変えて楽しみを作っている。	食材はメニューを作っているところから一括購入をし、職員が調理している。週に1回はいつもと違うところからお弁当形式の料理を依頼し食の楽しみを支援している。水分は最低でも900mlを目安に提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は正確には測定していないが、湯呑茶碗がほぼ100ccであり一日800～900cc摂取し、脱水には十分注意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨き、うがいを励行していると共に、毎週金曜日には訪問歯科にて口腔内のチェックをして頂いている。 入歯は夕食後入れ歯洗浄剤にて洗浄。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者一人一人の排泄チェック表から排泄パターンを読み取って適宜誘導するようにしている。尿意便意の無い方がおり、紙パンツを使用しているが、頃合いをみてトイレへ誘導している。	チェック票を基に一人ひとりの排泄パターンを確認しながら時間誘導を行っている。便秘予防に乳酸菌の多いヨーグルトを提供している。排便調節は医者との連携で看護師が行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録を残しており、職員全員がチェックできる体制にある。散歩やレクリエーション等で体を動かすようにして、排泄を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は一応予定があるが、希望があればその方の都合に合わせて入浴していただける。入浴前にバイタルチェックを行いその日の体調によっては本人納得のうえ中止にする場合もある。	週に2回の入浴を行っている。午前9時30分から15時までの間を入浴時間としている。入浴拒否の強い方はいないが、拒む方に対する声掛けなどは普段から何気なく使えるように取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	心身に無理がない範囲で昼夜逆転にならないよう、レクリエーション等に参加していただき、寝てばかりにならないよう工夫している。夜間の巡回では不用意に起こしてしまわないように注意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬台帳に薬の効用・副作用・注意点を記入してある。薬を頂いたときは必ず看護師による投薬チェックをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お掃除が得意な方にはお手伝いをしてもらい、張り合いが持てる役割をやっていただいている。また、カラオケの好きな方にはいつでも歌えるよう準備している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム近隣の公園を日常的に活用している。その他にも、ホーム近くに遊歩道があり適度な間隔でベンチが設置されているので散歩で利用している。季節ごとの行事では職員が見守りながら外出もしている。	週に3~4回は隣接する遊歩道や公園に散歩に出かけるようにしている。1時間ぐらいの散歩ではあるが、途中にベンチが設置されていることから休みながらゆっくりとした時間を過ごされている。散歩途中での買い物などはまだできていないが、少しずつ可能になるようにしていきたいとの思いがある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失等の可能性があるので極力所持させていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたいという希望があればどうして電話をしたいのか理由を聞き、理由によっては職員が電話をつなぎ話していただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	RC構造なので遮音性に優れ、窓を閉めると外部からの音はほとんど聞こえない。全室南向きであり、隣地との間隔も十分取っており、風通し・日当たりも問題なく、より良い環境を作っている。施設北側の公園の木々に季節を感じる事が出来る。	南向きに面しており、RC構造であることから遮音性に優れている。壁には毎月の行事の様子や塗り絵が貼付されている。現在は桜が装飾されており、来月にはこいのぼりや5月の飾りを作成し、季節感のある空間となるよう検討している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	誰でも座れるソファを設置し入居者同士が談笑したりしている。通路には手すりも設置しており、毎日歩行訓練をされる人もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	バリアフリー対応空の一般賃貸マンションと同一の部屋のため各戸に玄関・廊下・居間・台所・浴室・トイレ・ベランダがあり、一人一人に適した家具調度品を用意したり、使い慣れた筆筒や椅子などを持ってきたり居心地良く過ごされている。	職員として掃除専門の方が毎日居室の清掃を行っている。1ルームマンションと同じ作りのため、自分の好みの部屋になるように椅子やテーブル、仏壇や家具などを持ち込み配置している方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	基本的には建物全体が高齢者住宅規格になっており、バリアフリー・緊急呼び出しボタンを完備している。自室の認知が不可能な人にはそれぞれ特徴のある表示を設置し表示の高さも見やすい場所に工夫している。		